

寄せ植ゑしめられ、又櫻は其の種類ありといへども、多分は俗に呼べる千本櫻を夥多植ゑ置かれ、公園と成りにし後も、追々植ゑそへ、春興の花盛り實に無類といふべし。

一、榮螺山

此の岡山は、古蹟にはあらず。文政五年竹澤の殿閣造營の頃、齊廣卿の御物數寄にて、此の地邊に堀を掘らせ、其の土を以て此の地に榮山を造らせられたりといへり。

一、七福神山

此の地は、岡山にも非ず。巖石あるのみなりしかど、其の名を七福神山と呼べり。是も古蹟にあらず。竹澤殿の時齊廣卿の造らせられし泉水の一所にて、其の頃より七福神山と呼べりといへり。

一、大同石地藏

此の地藏堂は、舊藩前田家江戸本郷邸の庭中にありたる佛像也。再校江戸砂子に云ふ。石地藏加賀太守の庭にあり。四尺餘の立像にて、面躰異相、見るもの恐怖す。後背に楷書にて、大同元年とありといふ。往古奥州街道なりと。慶長の頃此の地を藤堂家に下さる。その頃加州太守は昇平橋

の外に屋敷ありといへり。或は云ふ。明治維新の際、舊藩江戸諸邸共引拂の頃、此の石像古佛にて從來崇敬せられし故に、彼の地より携へ來り爰に安置せしとぞ。平次按するに、世に古造の石像をば大同元年の作佛と稱し、或は大同の地藏と呼べり。大同年中に地藏の石像を造り、街道の道脇に地藏堂を造營せし事は、いまだ國史等にも見當らず。三代實錄貞觀九年十二月十九日の條に、故律師靜安弟子東大寺僧傳燈法師位賢護申牒言、承和年中靜安奏、始修佛名懺悔之法。便領天下專修此法、賢護聊捨衣鉢、換以丹朱造一萬三千像八鋪。高一丈八尺廣一丈四尺。請一鋪奉納豐前國八幡大菩薩宮。七鋪安置北陸道諸國。太政官處分依請といふこと見ゆれど、此は地藏の石像にてもなく、殊に大なる佛像にて有りつれば、異なれども、世にいひ傳へたる大同の地藏といふも、かゝるよしにて諸國へ頒配せしにやあらん。源平盛衰記卷六に、僧西光が事を記して、當初難有願を發せり。七道の辻毎に六體の地藏菩薩を造り奉り、卒都婆の上に道場を構へて、大悲の尊像を居奉り、廻り地藏と名けて云々。といふ事を載せたり。今おもふに、世に

いひ傳ふる大同の地藏といふもの、若しくはかゝる佛像の世に残りたるもあるならんか。加州石川郡大野の辻堂なる石地藏なども、いと古き佛像にて、世人大同の作佛といひ傳へたり。本居宣長の玉勝間九卷に、初瀬より伊賀の名張へゆく間に、大野寺といふに、いとたかく大きな石に佛のかたゑりたるあり。承元三年三月七日上皇御幸長谷寺并宇多郡内大野石佛とあるは、此の處なりといへり。是加州の大野地藏に似たり。本朝高僧傳に、傳燈寺開山運良、嘗畫大悲像、自製讚辭。藏諸賀州大野尼寺。といふ事なども見たり。又今公園内地藏堂を建て置かるゝ地は、舊藩十二世齊廣卿竹澤殿居室の遺址にて、殊にそのさき此の居室に寔逝せられ、其の枕石とて居室にありしを、居室取毀されし時、その石をば其の儘に残し置かれたり。然るに明治廢藩の際、江戸本郷邸より彼の石像を取寄せられ、枕石の所へ地藏堂を建てられ、枕石は取除かせられしと云ふ。齊廣卿在世の頃は、此の居室より卯辰山を向に見渡しけるゆゑ、卯辰山庚申塚の下邊に櫻樹を多く植ゑ付けられしかど、悉く枯れたりと、古老の話残り。

○明治紀念標

此の標は、明治十三年に築きたり。其の巖石は、城内玉泉院丸の露地石にて、寛永年中舊藩三世中納言利常卿、玉泉院丸に泉水築山を造らしめ給へる頃、能登浦等より挽き寄せ給ひし石共なり。日本武尊の銅像は、越中高岡にて鑄造せり。此の標は元金澤營所より發起すといへども、縣廳に於て勸業係の官員盡力して落成すといへり。其の入費夥多なりしといへども、聖上より金百圓下し賜はり、舊藩前田從四位公より七百圓、東本願寺より二千圓、西本願寺より標前の外廻り石造の柵等の入費を寄附せられ、其の他縣下金澤及び加賀・能登・越前・越中の諸郡郷有志の者共は勿論、長野縣等他縣下の人民までも多少獻金しけるに依つて、不日經營の功を奏し、明治十三年十月廿六日より三十日まで、日數五日間祭典式を執行し、且東西本願寺の門主も下向ありて、法會説教などせられしかば、貴賤老若群をなしけり。夫れより毎年五月祭祀執行の恒例とは成りたり。右は古蹟に關係せずといへども、國內の美觀なるがゆゑに爰に記載す。